

## 学びのデザインシート（授業前）

### 主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【理科】

1. 対象（実施を想定する学校・子供の実態の概要）  
5年4組（男子13人女子16人 計29人）
2. 単元（題材）名「流れる水のはたらき」（全12時間）
3. 単元（題材）で育成を目指す資質・能力

<b>知識及び技能</b>	流れる水の働きと土地の変化について、水の速さや量に着目して、それらの条件を制御しながら調べる活動を通して、 (ア) 流れる水には、土地を侵食したり、石や土などを運搬したり堆積させたりする働きがあること。 (イ) 川の上流と下流によって、川原の石の大きさや形に違いがあること。 (ウ) 雨の降り方によって、流れる水の速さや量は変わり、増水により土地の様子が大きく変化する場合があること。 を理解し、技能を身に付けること。
<b>思考力、判断力、表現力等</b>	流れる水の働きについて追究する中で、流れる水の働きと土地の変化との関係について予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現すること。 川の水による災害や災害に対する備えについて、調べた複数の結果を基に考察し、災害に対して備えることの重要性を捉え、日常生活での具体的な取り組みを考え、表現すること。
<b>学びに向かう力、人間性等</b>	流れる水の働きについての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしているとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとすること。 川の水による災害や災害に対する備えについて調べる活動に進んで取り組み、自分たちの地域でどのような災害が起きそうかを捉えた上で、自分にできることを考え更に友達と互いに伝え合う中で、有効で実現可能かという視点で自分の考えを見直し、深めようとする。

#### 4. 本時の目標

※「5」を単元（題材）で作成する場合は省略可能です。

#### 5. 授業展開【本時・**単元（題材）**】 ※本時または単元（題材）いずれかに○を付けてください。

<b>解決したい課題や問い</b>
理想の川とはどんな川だろうか。

<b>考えるための材料</b>
「防災まちづくり・くにづくり」資料 模擬川（砂、洗淨瓶、バット） タブレット
<b>想定される活動</b>
川についてのイメージマップづくりからスタートし、本単元の学習課題、見通しをもつ。 子供たちにとっての理想の川を学習前に記録しておく。 学習を行う中でより具体的に安全な川のイメージができるようになる。 単元の最後に災害のない安全な川、まちとはどんな様子でどんな工夫であるのか具体的に話し合いする。

### 対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

模擬川をつくっての実験、タブレットを使った話し合いなど単元を通して行っていく。

理想の街づくりについてまずは危険カ所を挙げる活動をグループで行い、その後その危険カ所を同対策していけばよいかを考える。

### 学習の成果（予想される子供のあらわれ）

授業の最初の子供たちの理想の川の姿は、楽しい、遊べる、生き物がたくさんいる、水が綺麗というイメージが多いと予想される。良いイメージだけの川から、生活に結び付いた川、環境や天気によって左右され、私たちの生活を脅かす存在になることを学習し、理想の川は遊びだけでなく、安全であることが大切であることを実感し、対策について考えることができるようにしたい。

子供の姿としては、川に対して「遊べる、きれい、生き物が住みやすい」という意識から、それらの条件だけでなく、「安全であること」について考えることができるようにする。